

2024年 12月 15日

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
理事長 鈴木 佑司 様

団体名: 早稲田大学国際学生友好会
代表者役職: 第59回留学生による日本語スピーチコンテスト幹事
代表者氏名: 向井悠人 印

日本ユネスコ協会連盟 後援／協賛／協力／共催 事業実施報告書
(○をつける)

貴連盟に 後援 いただきました事業は、以下の通り終了しましたので、ご報告いたします。

事業の名称: 第59回留学生による日本語スピーチコンテスト

名義使用承諾文書番号: 日ユ組後発 24- 037号

事業の期間: 11/6~12/15 (11/6から活動開始、12/15に本番)

事業の概要:

早稲田大学国際学生友好会が長年行っている、留学生による日本語スピーチコンテスト。毎年交流のある日本語学校や早稲田大学の留学生を10人程度募集し、彼らに弊会の会員が10~15名ほどついて1ヶ月程度、スピーチの添削や練習をサポートしていく。

今年度は12/15(日)に小野記念講堂で開催し、7カ国から8人の留学生が出場した。

協賛は新日本宝石株式会社・公益財団法人 昭和池田記念財団・一般社団法人 日本在外企業協会・早稲田大学オープンカレッジ修了生の会 稲修会・カシオ計算機株式会社から頂いている。また後援としては公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟・早稲田大学日本語教育研究センター・各国大使館院日本語スピーチコンテスト実行委員会(協力)から頂いている。さらに2020年度からはYoutubeによるオンライン配信も行っており、今年も早稲田大学放送研究会に協力してもらっている。審査員に関しては毎年当会外部の方々に依頼している。今年は日本在外企業協会から上戸道夫様・筑波大学広報次局長の高井孝彰様・NHK 国際放送局 多言語メディア部長専任部長の久保田留奈様・早稲田大学日本語教育研究センター准教授の吉田好美様・ヒューマンアカデミー株式会社 日本語教育事業部 教務主任の池田泉様の5名に務めていただいた。

事業の成果:

量的) 当日は13:30から開演をし、80名ほどの観客が入った。入場の際には金銭を受け取ることはしていない。またYoutube配信における閲覧者数は多い時で20名ほどであった。

質的) 今年は幅広い国からの出場者が集まり、個性に富んだスピーチが多く見られた。個人的に特に意義深く感じた点が、スピーチの中で自己愛や自己反省というメッセージが多く取り上げられた事だ。ある留学生は、どれだけ苦境に立たされても、自分と向き合い自分のありたい姿に近づくために懸命に努力することの大切さを熱く語り、また別の留学生は自身の過去の体験から、人間関係において大切なのは他人ではなくまず自分と向き合うことだというメッセージを伝えてくれた。こうした聞き手に対して自分を見つめ直すきっかけを与えるテーマのスピーチは、多様性や協調性といった他者と向き合うことを前提としたテーマが流行する現代において、新鮮で学びの多いものであった。また、さまざまなバックグラウンドを持ち、自国や海外で多くの経験をしてきた出場者との活動中での対話やスピーチ本番での交流は私たちだけでなく出場者にとっても気づきや変化をもたらすものであり、このスピーチコンテストの大きな意義であると私は考える。最終的に出場者同士の親睦も深めることが出来たため、非常に良かったと感じている。

注:

- 事業の様子を示す参考資料がありましたら、添付してください。
- ご提出いただく報告書は、必ずしも本書式でなくても構いません。
- 電子メールでお送りいただく場合、押印箇所を押印し、スキャンして、PDF形式でお送りください。
- 経費はすべて主催者をご負担ください。